

述而第七

子曰、飯疏食飲水、曲肱而枕之。

樂亦在其中矣。

不義而富且貴、於我如浮雲。

しい わく、そし くら みず の ひじ ま こ まくら
 子曰わく、疏食を飯い水を飲み肱を曲げて之れを枕とす。

たの しみも 亦た 其の うち あ
 楽しみも亦た其の中に在り。

ふ ぎ とみ が とおと われ お ふうん ごと
 不義にして富且つ貴きは、我に於いて浮雲の如し。

(7-165)

<子曰わく、疏食を飯い水を飲み肱を曲げて之れを枕とす。楽しみも亦た其の中に在り>

Q：「子曰わく、疏食を飯い水を飲み肱を曲げて之れを枕とす。楽しみも亦た其の中に在り」とは何ですか。

A：(1)「孔子が言った。食べ物は粗末なもの、飲むものは水、そして肱枕で寝るような極貧の生活の中にも、楽しみはある」の意。

(2)「粗末な飯を食い、水を飲み、腕を曲げて、枕代りとするような貧乏暮らしの中に在っても、道に志すほんとうの楽しみは、おのずからその中にも自然に在るものである」の意。

(3)「飲水」とは、おいしい汁物のないこと。「肱を曲げて枕」とは、うで枕のこと。

<不義にして富且つ貴きは、我に於いて浮雲の如し>

Q：「不義にして富且つ貴きは、我に於いて浮雲の如し」とは何ですか。

A：(1)「また不正な手段で得た財産と地位は、身につくものではなく、浮雲のように、すぐに無くなってしまふものだ」の意。

(2)「不正不義などをして得た富貴などは、わたしにとっては、浮かべる雲のごとく、はかないものだ」の意。

(3)大切なのは、「楽しみその中に在り」という心に楽しみのあること。心に楽しみが無い生活に「不正不義に陥るな」と大声しても、その効果は期待できない。

2011年6月21日林明夫記